

1 スクール・ミッションとスクール・ポリシー

1-1 大妻中野中学校・高等学校 スクール・ミッション

建学の精神「学芸を修めて人類のために」及び校訓「恥を知れ」に基づき、地球市民として、Society5.0における持続的なより良い社会の創造と自らの幸せを紡ぐことのできる人材の育成を目指します。

1-2 大妻中野中学校・高等学校 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

大妻中野中学校・高等学校は、スクール・ミッションを達成するために必要な3つの資質・能力を育成します。

- ①自律…自ら倫理観を培い、感性を豊かにすることで、己の良心に恥じない行動ができる力
- ②協働…多様であることが本質と認識し、多様な文化や個性を認め合うだけでなく違いを活力として協働していく中で自己実現できる力
- ③貢献…身近な課題から地球規模の課題にまで思いを馳せ、より良い社会の創造に貢献できる力

(2) カリキュラム・ポリシー

大妻中野中学校・高等学校は、探究活動による深い学びと、地球市民的視野を持ったリーダー育成に対応できる教育を実施します。

- ①Challenge…驚き、発見、好奇心、達成感と教科をつなげる学び
- ②Construct…教科の知識を広げ、深め、つなげ、探究していく学び
- ③Create…知識を地域や地球規模の具体的な課題にあてはめ創造的に考え行動する学び

(3) アドミッション・ポリシー

大妻中野中学校・高等学校は、以下に該当する生徒を募集します。

- ①知りたい、学びたい、やってみたいと、未知なる世界に好奇心を持って飛び込むことができる生徒
- ②自分を見つめ、他者を思いやり、価値観の違う仲間とも友情を育むことができる生徒
- ③グローバル社会に生きていく中で、人と違うことを恐れず、自分で考えて行動できる生徒

2 令和7年度重点課題

2-1 入試広報

(1) スクール・ミッションに基づいた中野校の教育の特徴・独自性を積極的に広報

- ① 文部科学省事業 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）拠点校およびユネスコ・スクールとして、先進的で特色あるグローバル教育の実践と取り組みを、グローバルリーダーズコースだけでなく、アドバンストコースの生徒募集にも積極的に発信する態勢を強化する。
- ② 地球市民的視野を持ったリーダー育成を目指し、教科・学年・分掌主体で取り組んでいる内容を、横断的につなぎ、共有、発信できる仕組みを構築する。
- ③ 国内生、帰国生、転入・編入生などの多様な生徒を受け入れる体制、個に応じた柔軟な教育体制が進路実現につながっている学校であることをさらに周知する。
- ④ アドバンスト入試の問題作成において、これまでも問題内に含まれていた思考力を問う問題をさらに意識して一部取り入れる。このことによって、本校の学習活動において「探究」をどのように捉えているかを示し、入学後の「主体的学習」への取り組みを一層あきらかにする。
- ⑤ グローバルリーダーズコース（GLC）志願者増、志願者層の拡大をめざし、対策を構築するとともに実行に移す。

(2) 広報戦略及び生徒募集・広報活動の改善

- ① オンサイト・オンラインの特性を活かした広報戦略、募集活動イベントを設定する。
- ② 働き方改革の流れに沿った広報業務のスリム化を検討する。
- ③ 私学協会の指針に基づき、オンライン入試など柔軟な入試形態の設定を検討する。

2-2 学習指導

(1) 学力向上に向けた学習指導

- ① 授業充実のための中野校オリジナル冊子「『より良い授業』の実践をめざして」に基づく授業を実施する。
- ② 中学生の基礎基本事項の定着を図る取組として、MMT（マンデーモーニングテスト）

- の継続実施とその不合格者への指導を徹底する。
- ③ MMT や授業中の小テストの不合格者に対するチューターシステムを利用した追指導を整備する。また、チューターシステム活用の範囲を拡大する。
 - ④ 生徒の発達段階を考慮して、受動的学習を主体的学習に切り替えていくことを教科・学年で目標とし、対応を継続する。
 - ⑤ 英語及び数学検定の学年取得目標値を設定し、その達成に向けた指導を実施する。
- (2) 新しい学力観、学習観に基づいた授業実践の研究と導入
- ① 全授業対象で「探究的学びのスタイル」を取り入れた学習シラバスを作成、共有する。
 - ② 教員の発想や取組を活かし合う環境設定、外部有識者との積極的な連携を実施する。
 - ③ 大学受験・合格・進学データにおいて、生徒のグローバル経験、探究的学びの履歴などとの相関を加味し、模試偏差値だけでなく新しいデータを整備、活用する。
- (3) 本校の特色ある課外活動を活用した生徒の主体的な学びの研究と実践
- ① WWL 拠点校として、そのネットワークを活かし、連携、協働する学校、機関、大学のプログラムや研究発表の場に生徒が積極的に参加し、その成果を、授業や課外学習などにおいてフィードバックできる機会を設定する。
 - ② ユネスコ・スクールの各種大会、研究会などへ、それぞれの授業単位で積極的に参加し、発表し、他校と連携し、学び合う機会を奨励する。
 - ③ フロンティア・プロジェクト、S-TEAM など、本校独自の生徒主体の活動チームや個々の生徒の先進的な取組をさらに進化、外部機関との一層の協働を促進する。
 - ④ クリティカル・シンキングの重要性を認識し、データ・資料を読み取る力、その力を発展させ、主体的に創造する力を育成すべく、教育課程の見直しを計画する。具体的には、高校 2 年次の数学必修化をもとに、文理融合的なカリキュラム開発に取り組む。

2-3 進路指導

(1) キャリア教育

- ① 各年の発達段階に沿った本校のプログラムを継続実施していくとともに、学校行事全体との関係についてねらいと目的という観点から改善を検討する。
- ② 取り組んだ活動について、振り返りの時間を設定し、自ら PC に記録し保管する指導を継続する。
- ③ 地球市民教育を実践する学校として、世界とつながり、多様な文化を持つ人たちとの共生に貢献するキャリアを生徒が考え、将来設計に活かす支援環境を設定する。

(2) 進学力向上

- ① 外部機関の分析結果を取り入れながら「学力の 3 要素」を育成することを目指し、これからの多様な大学入試に対応する。
- ② 年度始め戦略会議で教科達成目標値、学年の進学力向上プログラムを策定する。
- ③ 意欲的な中学生や高校生を対象として、平時の早朝や放課後・長期休業中に発展講習を実施する。
- ④ 定期的な研修の場・職員会議で、進路部を中心に外部模試や進学指導関連の資料を基に検証を行うとともに、目標値達成に向けた取組や改善方法を具体的に全教員で共有する。
- ⑤ 各学年保護者対象進路ガイダンス・夏期三者面談時に利用する資料作成に関し、外部機関団体との連携を積極的に取り入れる。

(3) 高大連携

- ① 新しく高大連携協定を締結した大学・学部および大妻女子大学との協働を一層進め、大学のもつアカデミックリソースを本校の取り組みに具体的に活かすカリキュラムを開発する。
- ② 複数の大学の入試広報担当者による大学説明会を、高校 1 年・2 年生には 6 月、高校 3 年生には 9 月に実施する。

(4) 今後変化する大学入試指導への対応と実践

- ① 大学入試がよりグローバルな形へ変化していることを踏まえた指導を検討、実践する。
- ② 国際併願、海外大学への進学指導をより一般化させ、エッセイ、志望理由書、インタビュー面接で試されるコンピテンシーを生徒が高められる研究を実践する。
- ③ 英語 4 技能試験が、大学入試のキー・コンピテンシーになっていることへの対応を一層、進める。

2-4 生徒指導

(1) 生徒指導の基本理念

- ① 校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本理念とし、他者に対する思いやり、寛容、モラルをもって自主的で主体的な行動をとることにより、好ましい友人関係の構築や社会性

- の涵養を促すことを目指した指導を実践する。
- ② 部活動が幅広い多様な学びの場となるように、本校「部活動のガイドライン」に沿って生活全般にバランスのとれた活動の展開を推進する。
- ③ 学校行事、委員会活動において、SDGs や地球全体的な課題を意識しながら主体的・探究的に取り組むなど、生徒の積極的な参加を促進する。
- (2) 自主性・主体性の尊重
 - ① 学校生活において、自主性、主体性を尊重し、自己肯定感を高めるため、自ら学びの目標を設定し、中間目標の達成状況を自己評価する習慣を身に付ける指導を実践する。
 - ② 自己肯定感を高めるために不可欠な学校や家庭での対応について、声かけやモチベーションなどの子どもたちへの関わり方について、教員や保護者の理解を推進する。
- (3) 多様性の尊重
 - ① 多様な個性をもつ他者との違いを認めながら、思いやり、寛容の心を持ち、連帯感を醸成できるように、生徒集会、HR、各種行事等の機会をさらに活用する。
 - ② 社会、世界に視野を広げ、多様性に対する非寛容が、差別、分断、紛争の原因となっていることを理解し、多様性についての正しい思考・行動の在り方を学ぶための指導を実践する。
- (4) 安全・安心教育
 - ① インターネットや SNS に関わるリテラシー教育を HR、生徒集会、研修会で実践する。
 - ② 「いじめ」の非社会性、犯罪性を理解させる指導とともに、早期発見のための定期的な全校生徒対象のアンケート調査を継続実施する。
 - ③ 課題を抱える生徒の対応のため、カウセリングルームと家庭の連携を強化する。
- (5) 外部専門家等の活用
 - ① 専門家による茶道、華道などの伝統文化の体験学習や性教育、生き方教育に関する講話を実施する。
 - ② 弁護士によるいじめ防止対策授業をおこない、社会で生きていく上での人との関わり方および生徒たち自身の法的思考力を養成する。

2-5 組織体制

- (1) 能力開発
 - ① 教員育成用「学校導入版 Find アクティブラーナー」の利用を促進する。
 - ② 入試問題研究を各教科で責任をもって行い、全体の進路指導に役立つための有効な資料を作成し、進路部と配信する。
大学共通テストの問題傾向分析会を試験翌日に実施し、専門資料の分析も含め、進学指導にむけての情報共有をおこなう。
 - ③ 12月上旬に「授業アンケート」を実施する。
 - ④ 定期考査の問題を教員間で公開し、互いに検証できる環境を整備する。
- (2) 「新しい学び」に対応する体制
 - ① 有識者との連携により、リベラルアーツ、STEAM 教育、グローバル・コンピテンシー、多様性、インクルージョンなどをキーワードとする新しい学びの研究を一層、進める。
 - ② 教職員やステークホルダーが、日本語話者や日本の組織風土の価値観を持っている人だけではないことを前提とした組織体制を整備する。
- (3) 充実した校外ネットワークを活用し、開かれた組織体制としてのより一層の充実
 - ① ユネスコ・スクール加盟校として、国内外の優れた実践をしている学校、組織と連携して、研修や情報交換の機会を設定し、より一層教職員の意識を高める。
 - ② 本校教職員の高い専門性や多様性を尊重し合い、フレキシブルに自由に意見を交換ができるオンライン・インパーソンの両面でのプラットフォームを充実する。

2-6 教育環境の充実

- (1) Beyond School の意識を進化させ、授業と授業外がつながる教育環境の一層の充実
 - ① WWL コンソーシアム構築支援事業拠点校として、地球市民教育研究校として国内外の様々な機関・組織との連携、情報共有をより一層進め、その教育リソースの活用可能な教育環境の充実を推進する。
 - ② 留学提携校、海外の学校の教員や生徒の取組を校内で共有する機会を増やす。
- (2) ICT 環境の更なる充実を図り、個別最適化への学びの環境のより一層の充実
 - ① ICT の一層の活用を進めるために、その活用法への研修の充実を図る。
 - ② 校内プラットフォーム (TEAMS や manaba) の活用の課題を検討、改善する。